

# いわむら

発行所 岩室村役場  
印刷所 巻・北洋印刷K.K

No.142

## 岩室村の人口

|                 |              |
|-----------------|--------------|
| (12月31日現在) 前月対比 |              |
| 男               | 4,227人 (-6)  |
| 女               | 4,818人 (-6)  |
| 計               | 9,045人 (-12) |
| 世帯数             | 2,086世帯 (+4) |

(住民基本台帳による)



## 盛大な新春懇話会 「昭和四十九年岩室村の展望」をテーマに

昭和四十九年の年頭に当ってこの機会を通じて、各界、村内の各種機関、団体の連携と協調を深め、新年の代表者を一堂に会し、新への夢と希望を託し、新しい年の展望と期待の中で、トシようという趣旨で計画された新春懇話会が、去る一月五日、約九十名の出席村の均衡ある発展に資せんを得て静閑荘で開催された。



村長は、懇話会のはじめに、村行政の要点として次のように語った。  
農業を軸とした観光工商行政の循環政策の推進  
最近の岩室村の農業のみならず、日本の農業は、昭和四十五年からの米生産調整によって大きくぐらつておる。そのさなかにあって、岩室村の主産業である農業は、時代に即応した改善策として農業企業化、農業株式化を確立して合理的な農業経営を図らなければならぬ。

青少年問題については、青少年意識調査を基本にして問題の原因を追求検討しながら、今後の方策を打ち出したい。  
学校教育は、国政での問題であるうけれども、新たな角度から見きわめて充実した教育がなされるよう推進する。

物価の値上りで、私生活は日に日に暗さを増している。このように現況はどう解釈すればよいのか。  
物価、石油問題から経済情勢が大きき変化し、この波をかぶるのは零細企業である。村当局に色々の手を打ってもらって、倒産者のないよう指導を望む。  
工業開発には、公害等のおおらない、住民が安全に生活してゆける地域に設定していただきたい。

農業をきりつめたりして、地方自治体に行政指導があるのか。  
食糧問題から、巨額の無駄な国費をついやしている。今後どのような施策を取られるのか。  
自然休養村事業を進めるに、これからのような構想であるのか。

自然休養村事業は第一年度は畜産団地造成を完了し、第二年度は農業を中心としたレジャー施設を考え、社会経済事情をふまえた施策を進めてゆく。  
農業指導機関の一本化をはかり農業協同組合の統合を強力に進め、農家の指導育成と助成をし、今後の農業の近代化を新しい角度から見直す構想である。  
道路整備と諸環境の整備  
最近、道路が文明、文化の利器であるといわれているが、岩室村が一二万メートルの村道をかかえているなかで、基幹村道の改修をうち出し、均衡のとれた村道の改修をし、四十八年

度には、大部分舗装されたが、間瀬バイパス道が完成されれば、理想的な国県道が改修されたことになる。  
政の充実  
昨年、消防車、救急車を岩室分署に設置したが、最近の救急車の出動が拡大している。更にこれらの問題を公害問題と合せて広域的に検討推進をする。社会福祉については、幾多の問題を探究、改善しながら、社会福祉を充実して、豊かな岩室村の建設に邁進する。

物価の上昇やで国民は非常に不安である。政府はものたまげましたような政策を打ち出している。公共事業費をきりつめたりして、地方自治体に行行政指導があるのか。  
食糧問題から、巨額の無駄な国費をついやしている。今後どのような施策を取られるのか。  
自然休養村事業を進めるに、これからのような構想であるのか。

◎春季農耕用軽油免稅証交付のお知らせ  
農耕用耕転機やトラクタに使用する軽油の免稅申請とその免稅証の交付が次の要領で行なわれます。  
一、日時  
二月二十六日(火)  
(午前九時半から午後三時まで)  
二、場所 岩室村役場  
三、持参するもの  
①すでに使用者証の交付を受けている人  
使用者証  
②印鑑(共同申請の場合各人の印鑑)  
③証明手数料 五十円  
④新規申請の人  
現時点でのPRの一つとして、今後農業のあり方等について中央から講師を招いて講演会の開催を計画してもらいたい。  
物価の上昇やで国民は非常に不安である。政府はものたまげましたような政策を打ち出している。公共事業

物を節約しよう